

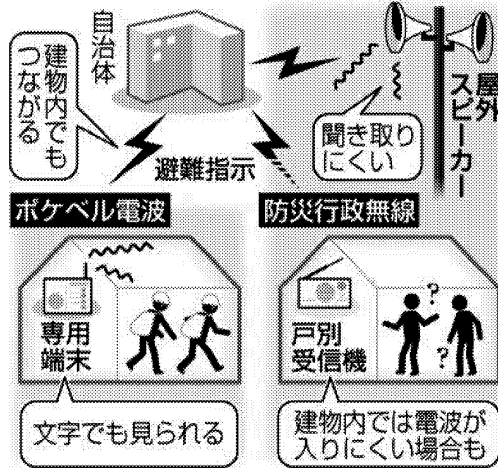
# ポケベル電波 防災で脚光



ポケベル電波を使った情報提供システムの専用端末

「0840（おはよつ）」「4649（よろしく）」……。1990年代、語呂合わせの数字メッセージが若者の間で大流行したポケッベル（ポケベル）。建物内や地下でもつながりやすい特性が見直され、東日本大震災後、防災分野でポケベル電波を使った情報提供システムを導入する自治体が増えている。避難指示などを住民に伝えるのに効果的なため、今後も注目を集めそうだ。

## 防災行政無線とポケベル電波のイメージ



自治体が災害時の緊急情報を伝える手段は、現在、60メガヘルツの周波数帯の電波

## 建物内・地下 届きやすく

を使い、屋外スピーカーとほぼ同じサイズで、無料で放送するほか、各家庭に任意で設置する戸別受信機でも受信できる。

しかし戸別受信機（縦向き）は1台3万〜5万円の価格が壁となり、普及が進んでいない。建物内で電波状態が悪いと作動しないこともあり、確実に緊急情報が伝わるか不安も指摘される。代替手段として

「東日本大震災後に各地の自治体から問い合わせや受注が増えた」という。神奈川県大和市では、

「東日本大震災後に各地の自治体から問い合わせや受注が増えた」という。神奈川県大和市では、

米軍厚木基地の防音対策の影響で、防災行政無線の屋外スピーカーの音声が各家庭に届きにくく、2015年に導入した。担当者は「電波が建物内まで届きやすく、コストも安い。社会福祉施設や学校での整備を進めた」と話している。